

世界の民族楽器

②ダンバウ (ベトナム)

瀬古康雄

一弦琴は世界各国に点在しますが、ベトナムのダンバウ (Dan Bau) は、たった1本の弦で3オクターブもの音域を持つ不思議な楽器です。見た目は単純ですが、ハーモニクスだけで聴かせる奏法なので、いい音を出すには何年もかかるといわれる難物です。

一弦琴の音色の謎

私はハノイ音楽院で少し手ほどきを受け、それから何度も手に取ってはみるものの、いまだにお手あげです。最近、こんな難しい楽器をマスターしてコンサートを開いている日本人がおられるとのことで、この楽器の難しさを知る者としては、やはり「音楽は国境を越える」ものだとあらためて感動を覚えます。

ダンバウの歴史では、ベトナム李王朝時代 (13世紀) に、盲目の乞食 (吟遊詩人) が一弦琴で門づけをしていたと伝えられています。私もメコンデルタで路上のダンバウ弾きに出会ったことがあります。その人はハンセン病を患い、目もほとんど見えていない様子でしたが、手首にからませたレバーを小刻みに動かして音に抑揚をつけ、哀愁を帯びた歌を延々と歌っていました。聞き手は私一人で、間近に聴くと、かなり太い弦を使っているのか、車の音に負けないほど太く、力強い音でした。

ダンバウの音色の秘密であるハーモニクスとは、弦が振動するときに生まれる倍音のことで、弦のちょうど1/2の所に軽く触れてピックではじくと開放弦より1オクターブ高い音が出ます。弦の1/3の所では5度上、1/4では2オクターブ上というように、次々と倍音を鳴らすことができます。ダンバウは、細長いボディにスティール弦を長く張って倍音が出やすいように作られています。

ダンバウは弦の太さや奏法にもよりますが、ふつう

蚊の鳴くような音しか出ないのが難点です。近年になって、大勢の観客にも聞こえるように、電気で増幅するダンバウが工夫されました。私のダンバウも螺鈿細工の胴の側面に小さな仕掛けがあり、スイッチを入れると内臓ピックアップが働きます。水牛製のレバーを左右に揺らして弦の張力を変えて音階を変化させ、ビブラートをかけるなどして、余韻をたっぷり響かせることができます。エレキ化のおかげで、ダンバウはベトナム伝統楽器のアンサンブルに加わることができ、海外のオーケストラとも共演できるまでになりました。

昔のようにダンバウに身を寄せ、耳を澄まして聴き入るのがいいのか、進化したエレキ・ダンバウによる演奏会をよしとするのか、議論の出るところでしょうが、スイッチ一つで両様が楽しめるのだから、ダンバウはよく工夫された民族楽器の好例だといえそうです。

(せこ・やすお/アジア学)



のんびり雲

第1号 2007

表紙：一畑電車
目次背景：松江城

巻頭エッセイ◎島根は日本の宝物 錦織良成 1

特集◎働く／さまざまな仕事人

日本庭園を造る／永島達二さん (足立美術館の庭師) 2

牛を飼う／泰中静江さん (奥出雲町の牛飼い名人) 4

魚を売り歩く／山本貴美子さん (鹿島町古浦の魚売り) 7

小笹昭江さん (鹿島町御津の魚売り)

勾玉を磨く／村田誠志さん (玉湯町のめのう細工職人) 10

桜を守る／周藤利夫さん (木次の桜守) 12

鰻絵を描く／松浦満幸さん (仁摩町馬路の左官職人) 14

シジミを獲る／原 侑三さん (宍道湖シジミ漁師) 16

ヘイ・カンパニーからの手紙 18

世界のインスタントラーメン大試食会 22

木綿街道を歩く 26

これ、何のおまじない? —安来「サンダワラ」編 30

勾玉作り体験記 33

英語を学んでどんなこと? 36

<童話>たんぽぽとまほうつかい 40

BILLY COMES TO MATSUE! 58

<詩> 43

本たちの受難 60

あっ、「おはなしレストラン」だ! 44

アフリカの自然 64

<まんが>変わらないもの 47

ロードトリップ 67

島根ってどんなイメージ? 51

銀幕の中のアメリカ 68

金と文化と資格と文学 54

有名人の墓をたずねて 72

<書> 57

道草のある旅 74

きらく湯よ、ごちそうさまでした 76

街のおもしろ文化観察学入門 (その式) 80

商店探訪②野波洋傘店 (松江市) 84

光のインテリア 87

編集後記 88

世界の民族楽器②ダンバウ (ベトナム) (裏表紙裏)